大分教育事務所管内　実践事例集

本事例集は、令和５年度大分教育事務所管内の学校訪問等で見られた好事例を紹介をしています。

ぜひ、それぞれの学校や教育委員会でご活用いただければと思います。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】大分市立坂ノ市小学校

学校教育目標の実現に向けた組織的な取組

学校の教育目標を実現するためのプランシートの作成

【学校の教育目標】　めあてをもち　よく考えて行動し　最後まで挑戦する　児童の育成

めざす子ども像

＜知識・技能＞	＜思考力・判断力・表現力＞	＜学びに向かう力＞
基礎・基本的な力を確実に身に付ける子ども	自分で考え、判断したり表現したりする子ども	粘り強く挑戦し、学びを学校や地域で活かそうとする子ども

【知】まなび部　　A・・90%以上　B・・70～90%　C・・30～70%　D・・30%以下

令和4年度の成果と課題

＜知識・技能＞
○「家庭学習の手引き」を活用し家庭学習の定着を図ることができている。
○チャレンジタイムや補充学習…の指導により、読み・漢字・計算などの基礎・基本の力がついてきて…
▲基礎・基本の定着には個人…
▲基礎・基本の力を応用問題…に生かせていない。
＜思考…
○授…

前年度の成果と課題が具体的に示され、年度を跨いで検証改善を進めていることが意識されています。

重点目標(目標管理シートの分掌等の目標へ)

主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決ができる子ども

学年部の重点目標(目標管理シートの目標項目へ)

(低学年)
課題について、自分で考え、意欲をもって、学習に取り組む子どもの育成
(…学年)
…について、既知の知識・技能を用いて、自分なり…えて表現できる子どもの育成
(…年)課題について、既知の知識・技能を用い…分の考えを深めたり、広げたりし、主体的に表…きる子どもの育成

達成指標(目標管理シートの達成された姿へ)

国語・算数の単元テストの「思考・判断・表現」で未定着層(正答率60%未満)の割合を15%以下にする。

具体的な取組(これを基に、各自の取組を目標管理シートへ)

①生徒指導の三機能を意識した問題解決的な授業の展開の工夫
・毎日、児童の意欲を引き出す「めあて」や「課題」の提示に毎日取り組む。
②考えを深められる話し合い活動や意見交流の場の設定
・単元に1回以上は、ホワイトボードやICT機器等を活用し、意見交流の場を設定する。
③毎月、家庭学習振り返りカード(児童)を実施し、すべての項目で、◎○と答える児童が70%となるように指導する。

検証と改善のための取組

①週1回は、ノートをチェックして、授業の振り返りを次の授業にいかす。
②児童アンケートや教師の意識調査を分析し、授業改善を図る。
学年で、単元により教材研究をして授業の改善を図る。
③家庭学習振り返りカード(児童)、家庭学習調査を(保護者)の結果から、個別指導をしたり、保護者へ啓発したりする。

目標協働達成チームの取組

地域	家庭	学校
読み聞かせや学びの広場(公民館や青少協主催行事)を行う。	親子交換日記を…期に1回(1週間程度)…	国語・算数の単元テストの「思考・判断・表現」で未定着層(正答率60%未満)の割合を15%以下にする。

「目標協働達成チーム」として、地域・家庭・学校それぞれの具体的な取組を検証できるようにしています。

	1学期	…	…		…	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期
評価								評価			

	児…	…	保護者アンケート R5年度	目標値
知	①…	…こと…でき	①お子さんは自分の考えをノートに書くことができている。	70%
		…るよう…きた。	②授業で学習したことを家で話題にするよう心掛けた。	75%
		…を行…きた。	③宿題に目を通し、目安の時間 取り組むように声かけをしている。	70%
		③	① ② ③	

【徳】…

令和4年度の成果と課題

＜知識・技能＞
○「えがおの花」や「よいところみつけ」の取組を継続的に行い、互いを認め合う心を育てることができた。
・生活のきまりについて　アンケート結果より
○児童・保護者は9割以上達成している。
▼教師が89%で9割を下回った。原因として1学期が81%という結果から、年度初めの周知徹底が遅れたことが考えられる
＜思考力・判断力・表現力＞
▼毎月、あいさつキャンペーンを行い、登下校時のあいさつは定着している。しかし、校舎内での挨拶は定着していない。
＜学びに向かう力＞
○縦割り班活動で、集会や掃除を多く取り入れることで、異学年での関わりが増え、子ども同士の交流ができるようになった。
○高学年が、縦割り班活動・委員会活動を通して、学校のリーダーとして意欲的に活動していた。

重点目標(目標管理シートの分掌等の目標へ)

学校のきまりを守り、お互いを認め合う心を大切にして、相手のことを考え、判断して行動できる子ども

学年部の重点目標(目標管理シートの目標項目へ)

(低学年部)学校のきまりやお互いを認め合う心の大切さを理解…
(中学年部)…大切に…
(高学年…)学校全…

達成指標を各自の目標管理シートにつなげ、何に取り組めば良いか明確です。

達成指標(目標管理シートの達成された姿へ)

学校のきまりを守り、認め合う学級づくりを行い、「友だちのよいところを見つけ伝えることができた」と回答する児童85%以上。

具体的な取組(これを基に、各自の取組を目標管理シートへ)

①「坂ノ市小　よい子のくらし」や月目標の指導を確実に行うことができる。90%以上。
②「えがおの花」の取組を週一回以上各学級で行い、お互いに…合う集団作りに取り組む。85%以上。
③「あいさつキャンペーン」「あいさつロード」を中心に、あいさつ…導を継続的に行う。85%以上。

検証と改善のための取組

①…日、月目標の振り返りを全クラスで行う。
②週1回以上、「えがおの花」を書く時間や伝える時間をとる。
③学校の中や登下校でのあいさつの仕方を、4・8・1月の月目標や生活指導の「さかのいち」を使いながら、継続した指導を行う。

目標協働達成チームの取組

地域	家庭	学校
見守り活動や、進んで挨拶…たり声かけをしたりする。	親子でメディアコントロールに取り組む。(月に1回以上、SNSやインターネット・スマホやゲームの使い方の家庭での約束を確認する)	学校のきまりを守り、認め合う学級づくりを行い、「友だちのよいところを見つけ伝えることができた」と回答する児童を85%以上にする。

	1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期
評価				評価				評価			

	児童アンケート R5年度	教職員アンケート R5年度	保護者アンケート R5年度	目標値
徳	①「坂ノ市小のよいこのくらし」や月目標を守れた。	①「坂ノ市小のよいこのくらし」や月目標の指導を継続的にした。	①お子さんに「坂ノ市小のきまり」を守るように声をかけている。	90%
	②友だちのよいところを、週に1つは見つけ伝えることができた。	②「えがおの花」を書く時間や伝える時間を確保し、指導した。	②お子さんに、優しい言葉遣いをするように声をかけている。	85%
	②学校の中や行き帰りで，先生や友だち，地域の方にあいさつができた。	③学校の中や登下校でのあいさつの仕方を、継続的に指導した。	③お子さんに、あいさつをするように声をかけている。	85%
	① ② ③	① ② ③	① ② ③	

【体】からだ部

令和4年度の成果と課題

＜知識・技能＞
○体力テストにおいて全国平均以下となった種目を各クラス再実施したところ、95%のクラスが記録を伸ばすことができた。
○健康に関する知識は正しい知識を習得している児童が多い。
○給食残さい率は3学期になるにつれ減少した。
▼体力テストにおいて、「立ち幅とび」が全国平均以下の数値となった学年が多い。
▼自分の成長や健康を考えて食べる力は、個人差が大きい。
＜思考力・判断力・表現力＞
○よい動きに対しての賞賛や拍手などの認め合いが見られる。
○衛生面に配慮し、給食の準備等行いことができた。
▼「毎日ミッション」を行う際に、運動負荷が効果的に得られるように、正しい姿勢や動きで取り組もうとする意識が低い。
▼めあてをもち、教え合い学び合った結果、自分のめあてをどこまで達成できたかを振り返る時間を十分に確保することができなかった。
▼危険予知力が低く、同じようなけがを繰り返し反省する気持ちがない児童が多い。
＜学びに向かう力＞
○「毎日ミッション」の取り組みが習慣化され、曜日ごとに異なる運動にも進んで取り組んでいる。
○給食週間などを通して、感謝の心をもって食事をすることができた。
▼学年が上がるにつれて、休み時間に外で遊んだりサーキットトレーニングをしたりする姿が減少する。
▼朝食を食べて来ない児童が多い。9.9が食べない又は食べない日が多いと回答【5年生健康に関する調査(大分市)】
▼積極的に健康課題に取り組む児童が少なく、理想はあるが、実践に活かせない児童が多い。

重点目標(目標管理シートの分掌等の目標へ)

運動や健康をよりよくするために、自分のめあてを意識して、工夫して取り組んだり、友だちと教え合ったりすることができる子ども

学年部の重点目標(目標管理シートの目標項目へ)

(低学年部)
運動遊びの行い方を工夫するとともに、運動のコツを伝えることができる子どもの育成
(中学年部)
自分の成長に向かって、運動や健康のめあてを見つけ、それを達成するために、工夫して練習したり、友達と教え合ったりすることができる子どもの育成
(高学年部)
自分やグループの運動や健康のめあてを見つけ、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自分の考えをグループに伝えることができる子どもの育成

達成指標(目標管理シートの達成された姿へ)

「運動や健康をよりよくするために、自分のめあてをもち、そのめあてを達成するために、工夫して練習したり教え合ったりして取り組むことができた」と回答する児童を70%以上にする。

具体的な取組(これを基に、各自の取組を目標管理シートへ)

①「運動や健康について、めあてをもち、課題を解決するための学びの場を設定し、めあてを振り返る授業の展開ができた」と上位回答する教職員70%以上
②「サーキットトレーニングや毎日ミッションに進んで取り組むように継続的に指導した」と上位回答する教職員70%以上。
③「体育通信」や「保健だより」(歯みがきカレンダー等)を通して、体力・健康づくりを啓発する。

検証と改善のための取組

①めあてをもたせ、教え合い・学び合う場面を設定し、自己のめあてをふりかえる時間を確保する。
②「サーキットチャレンジカード」や「サーキットの木」の取り組みを行い、学期に1回以上ふり返る場を設定する。
③体育通信や保健だより(歯みがきカレンダー等)を通して、体力・健康づくりを啓発する。

目標協働達成チームの取組

地域	家庭	学校
公民館や青少協の体育的行事への呼びかけを、年間3回以上行う。	・家の仕事を手伝う。 ・体力テストの結果を知り、家族で「体育通信」や「保健だより」に書かれていることに取り組む。	「運動や健康をよりよくするために、自分のめあてをもち、そのめあてを達成するために、工夫して練習したり教え合ったりして取り組むことができた」と回答する児童を70%以上にする。

	1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期
評価				評価				評価			

	児童アンケート R5年度	教職員アンケート R5年度	保護者アンケート R5年度	目標値
体	①運動や健康をよりよくするために、自分のめあてをもち、そのめあてを達成するために、工夫して練習したり教え合ったりして取り組むことができた。	①運動や健康について、めあてをもち、課題を解決するための学びの場を設定し、めあてを振り返る授業の展開ができた。	①お子さんは、学校の体育や運動を楽しみにしている。	70%
	②サーキットトレーニングや毎日ミッションに進んで取り組むことができた。	②サーキットトレーニングや毎日ミッションに進んで取り組むことができるように継続的に指導した。	②体育通信や保健だより(歯みがきカレンダー等)を通して、家で体力・健康づくりに取り組むことができた。	70%
	③運動や健康について、自分がさらに成長するために、家でもやろうという気もちをもって取り組むことができた。	③体育通信や保険だより(歯みがきカレンダー等)を通して、体力・健康づくりを呼びかけることができた。	③早寝・早起き・朝ごはんを心がけることができた。	70%
	① ② ③	① ② ③	① ② ③	

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】大分市立大在西小学校

学校教育目標の実現に向けた組織的な取組

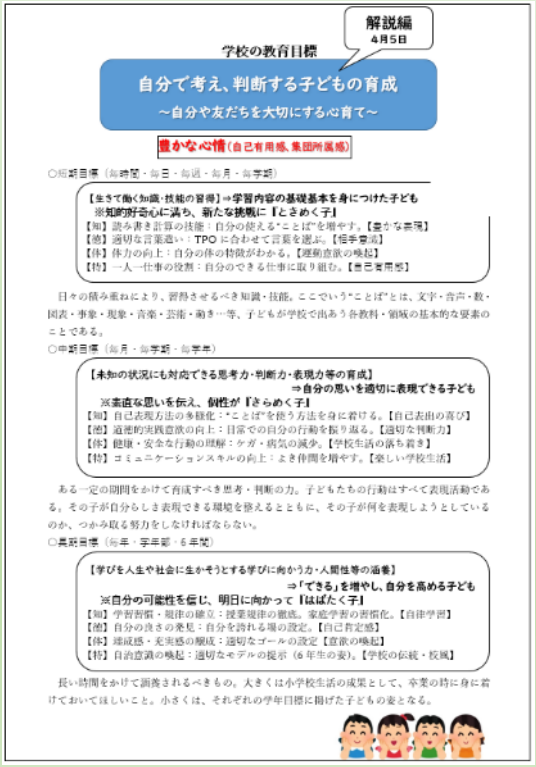
学校の教育目標を実現するための取組内容や取組方法、取組期間を「見える化」

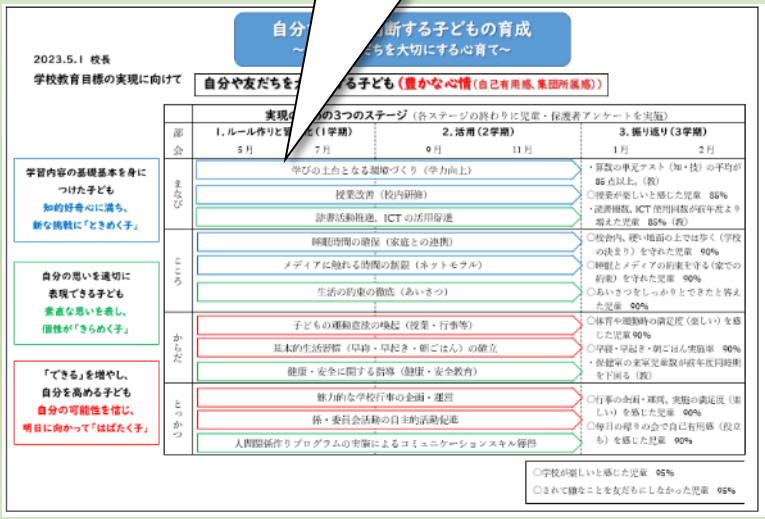
■ Point 1

取組期間（短期で習得、中期で育成、長期で涵養）などを分かりやすく示している点

■ Point 2

先生方一人ひとりにとって、いつ頃、何を、どの程度すべきかが明確になっている点





その取組が学校経営の重点（資質・能力）にどう関わっているかを同色で明示しています。先生方の意識も、自分たちの取り組みが学校教育目標の達成に連動しているという実感につながっています。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

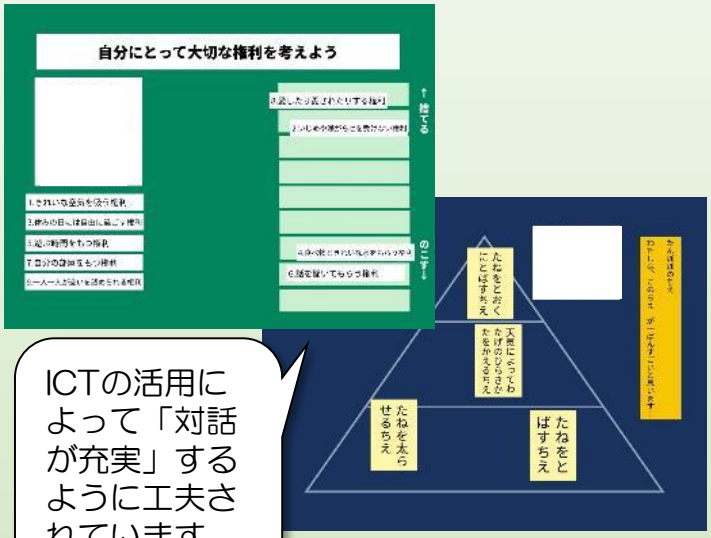
【事例】由布市立挾間小学校

ICTの効果的な活用

対話を充実させるICT活用

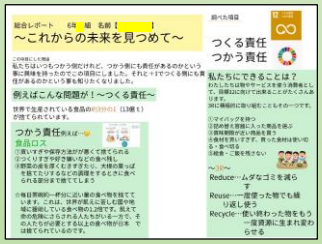
■ Point 1　日常からICTを活用しながら、実践した方法を共有している点。
■ Point 2　「ICTの活用」と「対話」の融合を、校内研究として取り組んでいる点。

「インゲンマメの成長には日光は必要か」という実験に向けて、「変える条件」と「そろえる条件」を付箋を動かしながら班で考えさせることで、積極的な対話を生み出していました。



ICTの活用によって「対話が充実」するように工夫されています。

日常的なICTの活用

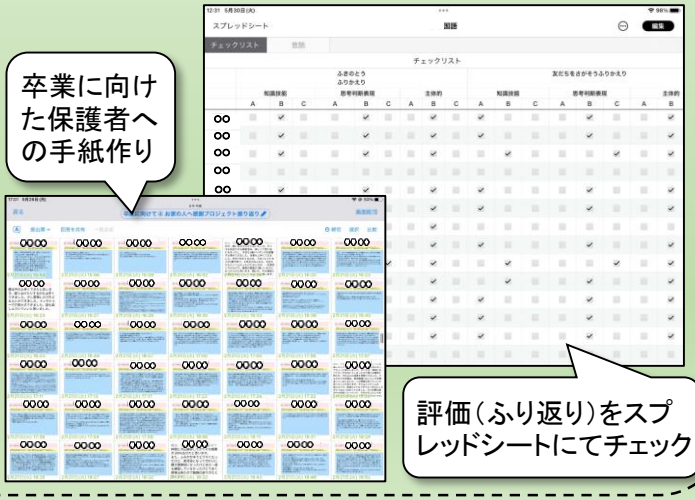


子どものプレゼン作成

レポート作成

米作りの記録・プレゼン

卒業に向けた保護者への手紙作り



評価（ふり返り）をスプレッドシートにてチェック

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】臼杵市立市浜小学校

学校・家庭・地域の協働の実践

学校評価４点セットにおいて、保護者代表・地域関係者が自ら目標設定し、主体的に学校運営に参画する取組への変遷

R2

「そもそも家庭と地域の目標を学校が決めるのは、おかしいのでは。」⬅ 発端

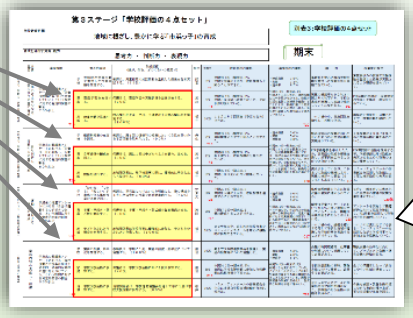
家庭の目標 ➡ PTA三役（保護者代表）

地域の目標 ➡ 地域関係者（学校運営協議会）

それぞれで協議

設定

民間会社等で、目標に対して数値による指標を設定・検証・改善する経験のある方が活躍



保護者代表・地域関係者が目標を自ら設定することで、学校評価アンケートの結果も意識し、主体的な検証・改善にもつながってくることが分かりました。

R3

コロナ禍の影響を受けながらも限られた機会で協議を行い、目標・指標を設定してきた。しかし、熟議と言えるほどの時間が確保ができなかった。特に目標は設定したものの、それを検証・改善する（振り返り）機会が十分持てなかった。

R4

コロナ禍（第7、8波）の影響を大きく受け、年4回の学校運営協議会すべてが延期または紙面開催となり、熟議できなかった。

（他校で行われているZoomでの開催は、高齢でICT機器の扱いに不慣れな方が多い本校には厳しい状況。）

地域の目標は、前年の目標を踏襲…

保護者代表とは、コロナ禍が収束し始めた後期から協議を再開

R5

保護者代表、地域関係者とも、通常通り協議ができた。

家庭・地域の具体的取組・取組指標を設定

学校（教師）では、考えつかない目標・指標を設定することができました。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】由布市立川西小学校

地域とともにある学校づくり

「熟議＆協働」による小規模特認校の取組

■ Point

協働の好循環を生み出すツール『共有のサイクル』を機能させ、地域学校協働活動を推進している点

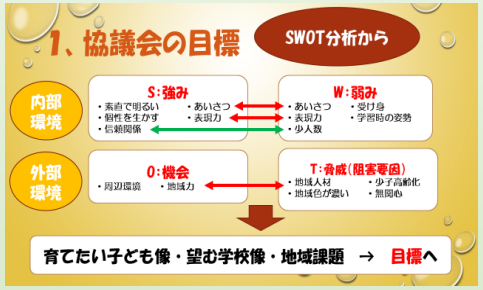
共有のサイクル

- **情報の共有** <R4・第1回会議>SWOT分析
- **課題・目標、ビジョンの共有** <R4・第2～4回会議> 協議会としての目標・取組
- **アクションの共有（協働）** <R5・第1～3回会議> 活動計画・役割分担・実際の活動
- **成功体験の共有** <R5・第4回会議> 振り返り・成功体験の共有・次へ

R4

「情報の共有」 第1回学校運営協議会

『共有のサイクル』を示し、段階を踏みながら会を運営していくことを説明。現状把握のためにSWOT分析を行い、全体の場で気付きを出し合う中で「学校や地域、保護者の強み・弱み」が見えてきた。「学校の存続」が、児童・保護者・地域住民・教職員など、皆の願いであることを確認した。



「課題、目標の共有」 第2～4回学校運営協議会

3回の協議で委員が様々な意見交流をする中で、『小規模特認校としての魅力・特色を明確にすること（特色ある教育内容の工夫・実施可能な体制づくり）』を目標に設定。

会議では「歴史ある本校の良さを生かす」
「自然豊かな地でのびのびと育ってほしい」
「今いる子も楽しめるような取組をしたい」
「魅力ある通わせたい学校とは何か」など、各委員の思いを十分に聞くことができた。

目標が定まったことで、何を協議し、どこを目指せばよいのかが明確になりました。

R5

「アクションの共有」 第1～3回学校運営協議会

特色ある学校づくりのヒント探し（6月ふれあい集会）
ドキュメンタリー映画「夢みる小学校」視聴
試写会には約20名、本番には約50名が参加し、感想や意見を付箋紙に書き残した。

＜映画に関するコメント（集約）＞

分類	コメント（人数）
よかった所	・子どもの自由や自主性を大切に（１３） ・きちんと質問ができる子どもたち ・体験活動（木工・飼育栽培・達人） ・頑張らなくていい、自分のままでいい
川西小でもできそう	・体験学習の充実（１０） ・自分たちで作ってみたい（７） ・子どもが考え、企画し、楽しむ（５） ・「間」を生む力・考える力（４） ・夢中になれることを見つける・手助けする（３） ・まちがってもいい、ここにいていいという安心感。一人ひとりに寄り添うこと
難しい所	・活動（小屋や遊具の制作、動物の飼育） ・学校の現実に合わない（目標・持続性） ・カリキュラムの問題
感想・疑問	・自分の意見をしっかり言えて凄い ・もっと子ども主体の行事を！ ・好きなこともいいけど、まずは勉強を

＜子どもたちの思い＞
・自分たちでやってみたいな（活動・協議）

＜大人たちの思い＞
・子どもにもっと自由と自主性を
・企画・行動・失敗の経験も大切

【学校ができること】
・総合的な学習の時間の見直し（課題・内容・持続性）
・子どもの自主性を育む場づくり
（子ども主体：全校会議・クラブ活動・全校遊び・運動会）

【学校運営協議会ができること】
・体験活動や総合的な学習の時間への協力
・モノづくりやお祭り等の企画・運営

「川西っ子祭り」
（段ボールを使った工作活動）

「成功体験の共有」 第4回学校運営協議会

協働することで実効性のある協議会へと成長し、成功体験を共有することで各自のモチベーションが高まり持続性のある協議会へと成長した。

来年度の教育課程や年間行事、学校運営協議会などの基盤を築くことができました。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】由布市立谷小学校

学校・家庭・地域との連携

基礎・基本的学習内容の定着に向けた家庭との協力

普段より、学校・家庭・地域との「協働」を推進しています。

■ Point

保護者会で理解と協力をお願いし、取組を依頼した点

効果的な音読練習について、教員が作成したマンガをもとに寸劇も交えながら説明し、言語量獲得の重要性を含めた理解と協力をお願いしました。

4点セット整理票（一部抜粋）

重点目標		重点的取組	取組指標
分かった」できたことを実感する子どもの育成	家庭	○目標を持って取り組む意識の向上	○保護者は、子どもと話し合って家庭学習の目標などを決め、学期に1回子どもと振り返り、生活シートに記入する。 ○家庭学習の「認め」の意義やその実施を保護者に呼びかける。
問題解決的に学び、自分の考えを表現する子どもの育成	家庭	○家庭内での対話の進め	○保護者は、単語での指示ではなく2往復会話による対話を心がける。
	地域	○総合的な学習の時間や生活科を中心とした「由布学」への参加	○学校運営協議会学習支援部は、谷むらづくり協議会を通して、学期に2回以上、「由布学」への参加を計画し、ゲストティーチャーを派遣する。
自分や友だちを認め、意欲的に取り組める子どもの育成	家庭	○親子ふれあい活動の実施	○各家庭は家庭に合ったふれあいの形を考え実施し、学級懇談の時に交流する。 ○保護者はキャリアノートを活用し、毎学期を振り返る。
	地域	○安全確保とあいさつ交流	○谷むらづくり協議会による毎朝の登校指導を計画・実施する。 ○生活指導担当者は、集会等で挨拶についての呼びかけを行う
校務の効率化と実態の共通理解	家庭	○学校の負担軽減を目指した活動の実施	○保護者は学期に1回以上、メール配信でのアンケート調査へ協力する ○学校通信・学年通信・タブレットによる組織的な連携
	地域		○谷むらづくり協議会は各教科や由布学に関する栽培分野の畑や田んぼの管理を行う。 ○谷むらづくり協議会は学校行事に合わせ、校内環境整備作業を実施する。

提子井路の学習

稲刈り体験

看板づくり

芋植え～芋掘り

親子陶芸教室

グランドゴルフ体験

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】津久見市立千怒小学校

家庭との連携
学校評価アンケートの活用

■ Point　保護者が「学校の教育目標・教育活動・家庭での子どもとの関わり」を「自分事」として捉え、当事者意識をもつことができるようにした点。

1，学校評価アンケートに込めた職員の願い

①学校評価の４点セットに関わる項目・児童や保護者の思いや様子を把握し、評価・改善に役立てる。
②児童アンケートについては、児童一人ひとりの様子を把握し、指導に生かせるようにする。
③保護者アンケートは、保護者の思いを把握するだけでなく、学校の教育目標・教育活動・家庭での子どもとの関わりについて自分事として捉える機会（啓発）になるようにする。

2，昨年度からの改善点

① 運営委員会 → ② 三部会 → ③ PTA三役会 → ④ 職員会議 → アンケート実施 → ⑤ 三部会 → ⑥学校運営協議会

- ① 運営委員会：教務主任が作成したアンケートの素案を確認。
- ② 三部会：「素案」「昨年度のアンケート」「４点セット」を並べながら、全教職員が当事者意識をもって部会ごとに項目を熟議。
- ③ PTA三役会：教職員が作成したアンケートを提案。保護者の視点から見ることで啓発の効果を高める。内容について熟議。
- ④ 職員会議：熟議したアンケートの内容を共有。
- アンケート実施：４点セットとアンケート結果を基に、学期の取組の反省。次の学期への改善・修正。
- ⑤ 三部会：作成の手順を紹介、結果の共有。４点セットの内容も踏まえて成果や課題を共有し、メンバーで熟議。
- ⑥学校運営協議会：成果と課題の共有 改善策を模索

3，熟議を重ねた経過・熟議の実際

【運営委員会】
三部会に向け、管理職とミドルリーダーが、学校評価の4点セットと矛盾がないか確認。

【三部会】
全教職員が当事者意識をもって熟議
「教育活動の改善につながるか？」「保護者が自分事として捉えられるか？」

- 週末読書の取組を、保護者も一緒に確認しているか把握し、啓発するには、文章表記がこのままでよいか…？
- 自分の部会が担当する活動が、うまく機能するには、生活習慣に関する項目は絶対に必要。さらに良くするには…？
- 「子どもは、学校であったことや自分の思いを家でよく話し、相談できている」は、4点セットには該当しないが、あれば、啓発になる・・・。

【PTA三役会】
「保護者が自分事として捉えられるか？」
「子どもの成長のために、よりよくするには？」

- 保護者の視点で考えると、【児童アンケート】で、「学校が楽しいかどうか」を振り返ってほしいし、親も把握したい。項目を追加してほしい。
- 夜の就寝時間については、児童にも保護者にも振り返ってもらった方が良い。スクリーンタイムの長さなど、生活習慣の乱れは、悩んでいる保護者も多いはず。

【アンケート実施】
結果の共有
成果と課題の把握

【三部会】
アンケート結果から、成果と課題の確認。
次の学期に向けた改善点の熟議。

- 取組をしてみて、うまくいった点は…。よりよい取組にしていくためには…。
- 「アンケートがこのように考えられて作られたものであるなら…。PTAとしてできることもあるはず。スクリーンタイムだけでなく、子育ての悩み・うまくいった子育て方法などをアンケートにして、共有する取組をPTAで行いましょう。親どうしがつながる機会を自分たちで作ります！」

【学校運営協議会】
成果と課題の共有
改善策を模索

- 様々な立場から見て、子どもたちの様子は…。改善できる点は…。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】臼杵市立福良ヶ丘小学校

働き方改革の推進

働き方改革を推進するための組織マネージメント図を作成

■ Point 1

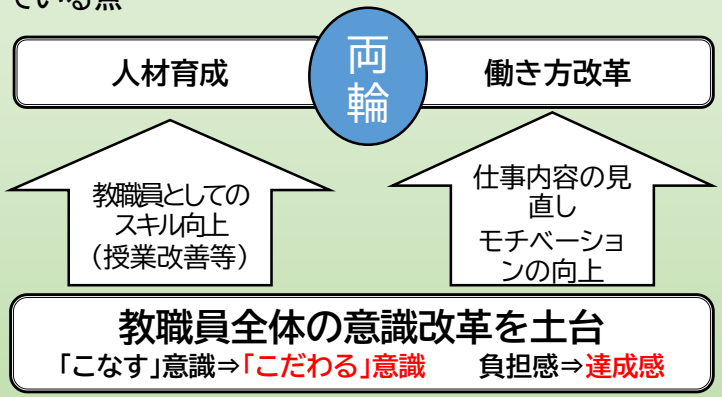
昨年度までの現状を出し合い、全職員が当事者意識をもって取り組めるようにした点

■ Point 2

「こだわる」からこそ「達成感」につながるという意識を土台として大切にしている点

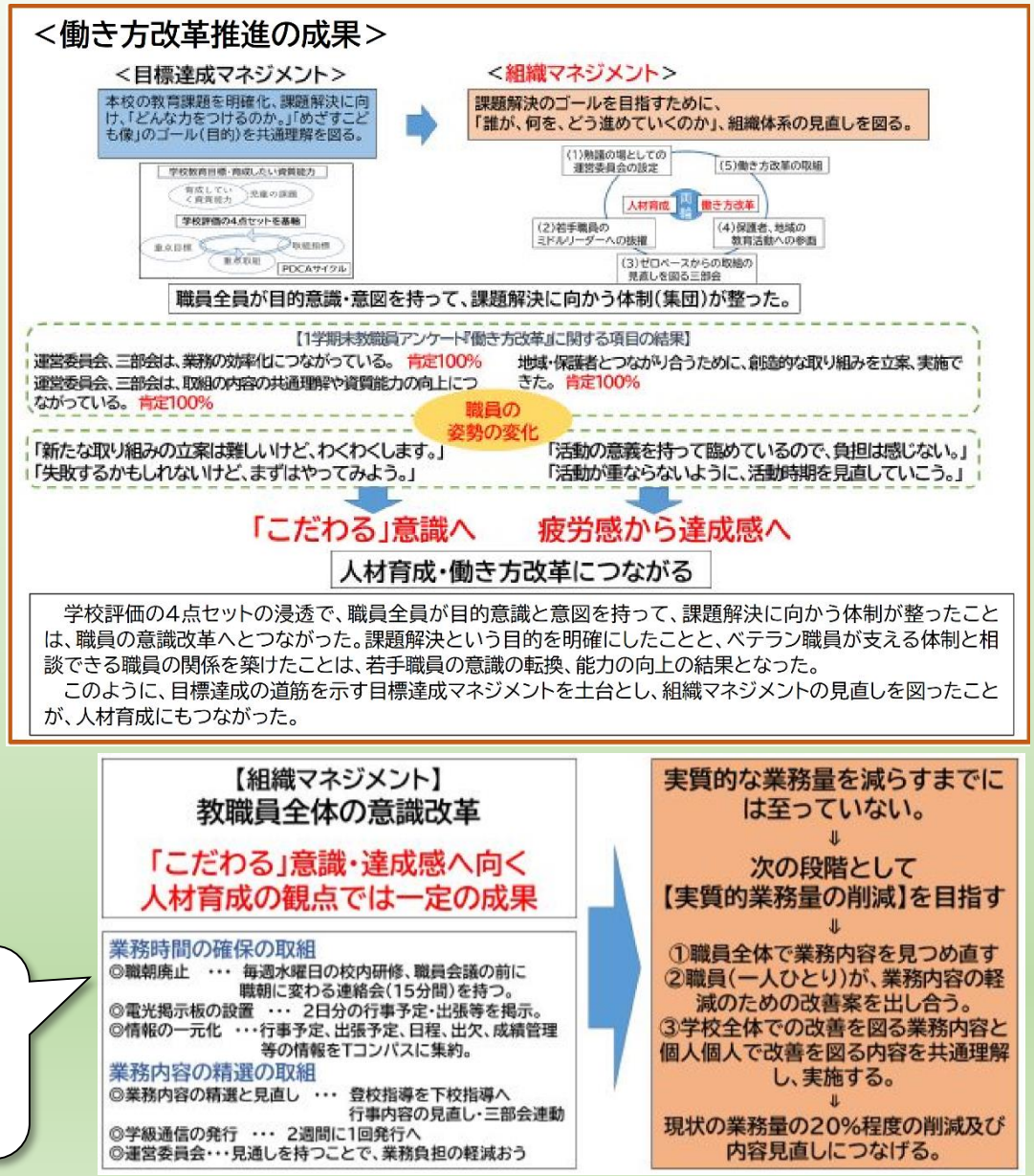
■ Point 3

「働き方改革」と「人材育成」を『両輪』として取組を進めている点



実際に、若い先生方が教務主任等のミドルリーダーとして、管理職のリーダーシップのもとで活躍をしていました。

さらに、今後の働き方改革を推進するための方向性も示されていました。



実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】臼杵市立東中学校

働き方改革の推進

勤務実態改善計画を図式化

■ Point 1　先生方が取り組むべき内容が視覚的に捉えやすい点。

■ Point 2　勤務実態について、数値で振り返ることができる点。

目標：　1．心身ともに支障がなく、エネルギーを持って職務遂行にあたるとともに、家庭生活を充実させることができる。

2．校務の効率化・個と組織の役割の最適化を図ることで、労働生産性（生産効率）を高めることができる（子どもや授業に係るエネルギーや時間を確保するため、その他の校務を整理し、手際よく処理することができる）。

	課題	取組内容	管理職が取組むこと	職員が取組むこと
心身の健康	・運動・休養・食事によほど気を付けないと、現代生活では年令を重ねる毎に生活習慣病のリスクは高まる。 ・定期健康診断に加え、器官別検診を受検することや不安・不調を感じたらすぐに受診することが大切である。 ・長期間の抑うつ状態は、必ずメンタル面の変調を来すことから、溜め込まないことが大切である。	健康診断・二次検診100%受診する。 ストレス診断100%実施する。 メンタルヘルス	受診日の把握と個別の声かけ 職場のストレス状況を職員に知らせる。 校長面談時に、心の健康状態について聞く。	自分と家族のために100%受診する。 職場のストレス状況を知り、改善課題に取り組もうとする。 笑える会話をする、愚痴・不満や文句を声に出す、等々ためないようにはけ口を見つける。
時間外勤務の縮減	上限時間の範囲内には収まっていない。 ①R3年度月45時間以内の達成率48.8%。月80時間以上は、のべ3人（月連続はいない）。100時間超は0人。月45時間を7か月以上超は9人/15 ②年間時間外平均542.8時間、年360時間以内の達成率21.4%、最高値735時間 ○水曜日の定時退庁（1時間以内）は、54.5%	教職員は、週５日のうち４日以上１時間以内に退庁できるよう計画的に業務に取り組む。 部活動終了後、1時間以内に退庁する。 水曜は部活休み、土日は1日休みを徹底する。	個人の勤務記録を月2回配布する。 職場全体の月時間外集計を半期に1回知らせる。 正確に確実に打刻させる。	時間外勤務時間を意識しながら、業務に取り組む。 学校全体の状況を知り、早く帰ろうとする機運を醸成する。 正確に確実に打刻する。
校務の効率化	・プリントを印刷・配布することに時間を割いている。 ・データ保存のルールが決まっておらず、データを探すことに時間を割いている。 ・学校を支える職員の業務内容を把握し、効果的な活用や本来の活用ができているか。	会議の効率化を果たし、16:10までに終了する。 運営委員会によらない事項の早期処理 最新の校務情報の集積媒体として、校務支援システムを最大限に活用する。 学校を支える職員の業務最適化を図る。 データ共有化による資料作成等の効率化を徹底する。	①早めに議題を整理しレジュメを整え、議事内容に目を通させる。 ②原則、提案・協議はデータで行い、決定版を必要に応じ配布する。又は個人で印刷する。 会を待たずに、関係者で協議・決定できるよう、ミドルリーダーとの対話を重ねておく。 情報を最大限集約し、時間と人を整理する。 職員の業務内容を知らせる。 ①校務分掌に沿ったデータフォルダに近づけ、探しやすいアーカイブにする。 ②年度ごとのフォルダを作成させる。	提案資料を早めに資料箱におくとともに、事前に連絡相談を上司と済ませておく。 報告・連絡・相談の徹底（仕事は報連相で動く、報連相で決まる） ・Te-como@ssを1日に数度、必ず確認する。 ・年休や予定変更は、自分や担当で入力・修正する。 学校を支える職員の業務内容を知り、気兼ねせずに、相談や依頼をする。 個人フォルダに保存せず、分掌内のフォルダに保存する。
物的環境の改善	・当時は収納スペースを考慮した職員室設計でないため、収納に困っている。 ・学年の連絡スペースが小さく、情報が整理できない。 ・支障がないレベルであるが、老朽化が目立つ。	物的に校務のしやすい整理された職員室づくり 修理・修繕に即対応し、校務に支障をきたさない。	学年大判ホワイトボード（収納棚付き）を各学年に設置する。⇒R5年度へ延期 改善期日を告知する。	気になることは遠慮なく、管理職に言ってみる。 ＊肯定割合85%(100)、肯定値77%(73)

作成することが目的ではなく、「いかに活用するか」を想定し、「実際に改善する」ことを意識しています。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】大分市立三佐小学校

働き方改革の推進

ワークライフバランスの実現に向けた取組

■ Point

先生方の前向きな気持ちを引き出すことができるため、働き方の「意識改革」のきっかけとして受け入れやすい点。

勤務時間の削減ばかりを迫ると反発する気持ちが出てきてしまうため、自分の大切にしたい時間を積極的に挙げ、「その時間を生み出すために何ができるか」を考えて実行するという自発的な取組につなげています。

【例１】氏名（三佐　心桜）

（ワークライフバランスの実現に向けた私の取組）

1．毎日家族と一緒に夕食を食べ、会話をする。
2．趣味のパン作りに取り組み、腕を上げる。
3．週末は、我が子とたくさん触れ合う。

内容は自由で、楽しみたいことやってみたいことを記入します。

（勤務時間に係る自己目標）

1．休憩時間には休憩をする。放課後の15分休憩時には、職員室でコーヒーブレイクをする。

【例２】氏名（三佐　陽翔）

（ワークライフバランスの実現に向けた私の取組）

1．ジムに通い、今年も自分磨きに取り組む。
2．寝食の時間を削らない。
3．好きなアーティストのYouTubeを見る。

簡単な事からでもよいので、先生方の自主性を大切にしながら各自で目標設定をします。

（勤務時間に係る自己目標）

1．月、金曜日は18時までには退勤する。水曜日は毎週定時退勤する。火、木曜日は残業デーとし、18:30を過ぎそうな場合には、教頭先生に申告する。

『誰もが笑顔で元気に働ける三佐小の職場づくりとワークライフバランスの実現（2年次）』（抜粋）

- ●会議・行事の精選・公務の効率化に向けて
- ●時間外勤務実態把握に向けて
- ●全市一斉定時退庁日を厳守
- ●年次有給休暇の取得促進に向けて
- ●校内労働安全衛生委員会の開催
- ●校務の効率化、合理化

◎長時間勤務の改善

- ・ノー残業デーの取組
- ・本校の目標周知と残業デーの申告
- ・可視化による自己改善の実施
  （行事予定表・ホワイトボードへの明記等）
- ・教職員1人1人の働き方の把握
- ・行政、その他関係機関との連携
  （SC、SSWの積極的な活用他）

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】由布市立挾間中学校

校内研究　**主体的・協働的に課題を探求し続ける生徒の育成**

■ Point

校内研究の2つの取組を整理・可視化し、共通認識しながら教職員全員で取り組んでいる点

教師の「授業の質」を向上する

授業づくりの視点

取組①【「つなげる」学習指導】

① 既習事項や既有の知識を、「つなげる」
② 協働(対話)的な学習のなかで自分の考えと相手の考えを、「つなげる」
③ 本時の学習と次時(今後)の学習を、「つなげる」
④ 他教科や日常(社会)生活と、「つなげる」

「つなげる」指導を取り入れた授業改善を行なっています。

問題解決能力の育成

☆教育目標の達成☆

学力の向上

教師がゴールの姿をイメージし、どんな生徒の「振り返り」になるか予想しながら授業を行い、授業改善につなげています。

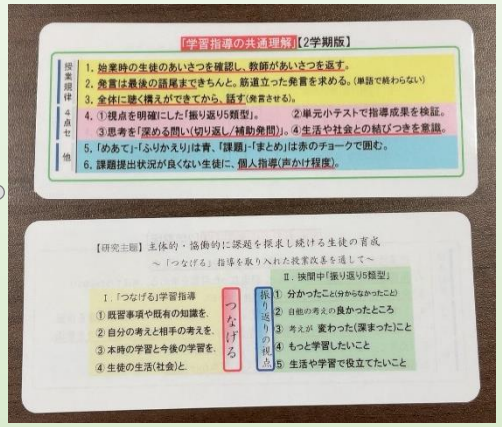
学びの見取りの視点

取組②【挾間中「振り返り」5類型】

何についてふりかえるか	観　点	何が得られるのか
① 分かったこと(分からなかったこと)	[知・技]	⇒学びの「自覚」
② 自分や友だちの考えの 良かったところ	[思判表]	⇒学びの「良さの発見」
③ 自分の考えが 変わったり深まったりしたこと	[思判表]	⇒自身の「変容の気づき」
④ もっと学習したいこと	[思判表]	⇒今後の「学びへの展望」
⑤ 生活や学習で役立てたいこと	[主学態]	⇒概念化/技能化への「意欲」

生徒の「学びの質」を向上する

先生たちがいつでも確認しやすいように、カードに要点をまとめ配布しています。



取組の「深化」と「汎化」

◇「学習指導共通理解」の設定

【1学期版】

○机シートに入れたりして、日常的に見るようにしている教員が多い。

【2学期版】

○2学期版は内容の見直しをして、裏面に「校内研」の取組1と取組2を記載した。

○10/6金全校集会で、生徒と共有し、ともに授業を創る契機とする。

「みんなでやっていこう！」という雰囲気で推進しています。

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】大分市立鶴崎小学校

校内研修

「授業改善」と「人材育成」を効果的に推進

■ Point 1

行った授業の実際を、分かりやすく実践に即して具体的に紹介している点。

■ Point 2

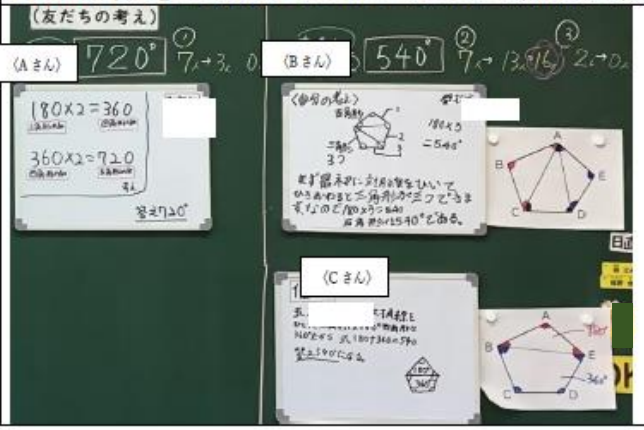
どのように指導したのかではなく、「子どもの様子」として教師の意図したものがどのように見とれたかに着目している点。

「明日に役立つ〇〇研修会」と銘打って、ベテランの先生方が講師になり、指導のコツ等を伝え合う取組も行っています。

教師の手立てにより子どもがどう変容したかを具体的に示しています。

子どもの様子を、数値も織り交ぜながら具体的に示しています。

〇取組の一例：実践紹介カード

教科（単元）	５年　算数　合同と三角形、四角形
活用したもの	マイボード ・ タブレット ・ その他（　　）
教師の意図（目的）	問題「五角形の角の大きさの和を工夫して求めよう。」の問題場面を把握し、自分の考えを図や式、言葉などを使って説明させるため。
子どもの様子	ノートに自分の考えを書き（５分）、マイボードに図や説明を書く（３分）。次に、全体で発表させながら、板書に位置付けていった。最初の自分の考えを聞くと、①７２０°が７人、②５４０°が７人、③分からない が２人だった。①は、三角形の角の大きさの和が１８０°、四角形は１８０°×２＝３６０°だから、五角形は四角形の２倍と考えて３６０°×２＝７２０°という誤答であるが、はじめは半数の児童がこの考えに賛成していた。その後、近くの人と考えを交流すると、①７２０°が３人、②５４０°が１３人、③分からない が０人に変わった。B児とC児が図で示すことで、②の５４０°が正しいと気づいた児童が多かった。さらに、全体の場でどちらが正しいのか考えを出し合い、深めていった。別の児童にも考えを説明させ、たしていく角を色分けしてしていった。「三角形の角の大きさは１８０°、四角形の角の大きさの和は３６０°」という既習事項を確かめながら、五角形は三角形が３つできるので１８０°×３＝５４０°、五角形は三角形と四角形ができるので、１８０°＋３６０°＝５４０°という考えに納得し、全員が②５４０°という答えにたどり着くことができた。
成果と課題	◇マイボードに図を書いて説明できるので、近くの人や全体で考えを共有することができた。 ◆図や式、言葉を全て入れると字が小さくなるため、黒板に貼ると見えにくい。
授業の実際（板書写真など）	

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】津久見市立青江小学校

「算数科 授業実践シート」を活用した授業づくり

「算数で身に付ける力」を共通理解

■ Point 1

研修部を中心として、学校全体で「新大分スタンダード」に沿った主体的、対話的で深い学びを実現する算数の授業実践を目指している点

■ Point 2

ホワイトボードミーティングで子どもたちの現状や課題を出し合い、算数を通して子どもに身に付けさせたい力を考え、共通理解している点

■ Point 3

・教職員アンケートにおける活用率100%
・提案授業、互見授業実施率100%
・OJTとしても機能

２０２３　算数科　授業実践シート

青江小研修部

○新大分スタンダードに沿った主体的、対話的で深い学びを実現する算数の授業実践をめざした授業実践シートです。まず、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が位置付いた授業作りをめざします。

実施日	2023.6.14	学　級	1年	授業者	○○　○○

Ⅰ　単元について

単元名	ぜんぶでいくつ
単元でつけたい力	加法の意味（増加・合併）について理解し、１位数＋１位数で繰り上がりのない加法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力。

Ⅱ　授業について

題　目	たしざんのお話を作ってブロックや図で表そう。	時　数	5 ／8　時間
ねらい	増加と合併の意味の違いを、ブロックを操作することや、式・言葉を書くことなどを通してとらえ、図に矢印を書くことで表せるようにする。		
評価規準	増加と合併の場面について、その違いがわかるように図や言葉をかいている。（思考・判断・表現）【　ノート　】		

Ⅲ　授業の展開について　　◎評価及び★C層の子どもへの具体的な支援を位置づける。

展　開	指導及び指導上の留意点
導　入	２枚の絵を見せて、お話を作ることを伝える。
めあて	おはなしを　ずであらわそう。
問　題（既習事項とのちがい）	４＋２＝６になる、増加と合併の両方のお話が提示されている。「あわせて」「ふえると」「もらうと」などの言葉に注目させ、既習の増加と合併のそれぞれの場面を想起させる。
見通し	★２つの場面をを図に表したヒントカードを用意する。矢印だけ記入させる。
課　題	おはなしをずであらわすと、やじるしはどのようにあらわせばよいかな。
まとめ	ふえるときは←、あわせるときは→←とかく。
確かめ	場面を変えた増加と合併の問題を提示し、図に矢印を入れる。（ワークシート））
ふり返り	図に矢印をかくと、「ふえる」と「あわせる」のちがいがわかった。

Ⅳ　考　察　　＊授業の板書の写真を添付する。

①問題をイメージすることができていたか。（そうするための手立ては有効だったか）

②問題解決の見通しを共有し、全員が自力解決にのぞむことができたか。

③自力解決の際に、数学的な表現（絵や図、数直線等）で考えを持つことができていたか。

④確かめ問題では、全員の「分かった」につながったか。

○改善点

単元全体を見通した「つけたい力」

ねらいと評価規準の整合性

困りのある子への具体的支援

「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」が位置付けられる授業展開

授業者、互見者の考察や改善点を交流

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】大分市立坂ノ市小学校

「授業力向上」を目的とした取組　「坂小ファイヤー」

■ Point【活動内容】

①2週間に1回集まり、学級経営の困りや児童への対応など共有する。
②日々の授業の板書を共有。アドバイスや質問をし合い、それぞれの学びにしている。
③メンバーの得意なものを見せ合う。
④学校外での勉強会などを、いち早くファイヤーに知らせる。
⑤積極的に研究授業・実践を発表、大分附属小学校の公開授業等を見に行く。
⑥講師を呼び、学習する。

図工の実技講習

坂小 “ ファイヤー ”

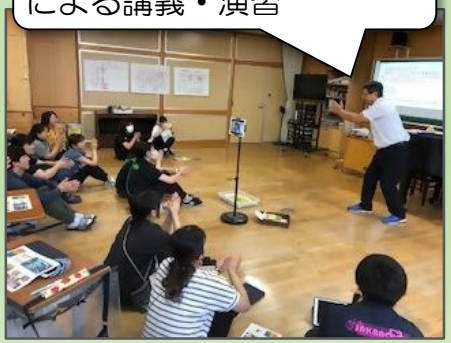
みなさん毎日、お疲れさまです！
夏休みもあっという間に終わり、２学期が始まりますね
１学期を振り返る余裕もないなかですが、
困ったことはなかったですか？
学級経営のやり方、児童への接し方、授業の流し方
困ったときにすぐに聞ける仲間はいますか？

せっかく同じ学校で働いている仲間なので、
困ったら助け合い、仲間の得意なもの・技を盗み、
時には仕事を忘れて遊び♪
学年部を超え、支え合える仲間を作りたく
声をかけさせてもらいました

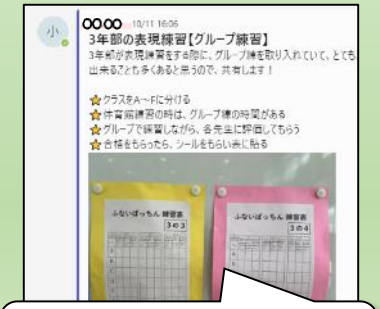
具体的な活動は
○授業力向上
（日々の板書を共有・互見授業等）
○困りを共有
（２週間に１回位、放課後集まり困りを共有）
○ベテラン先輩方の技を盗む
（ゲストで呼び、専門的な知識を学ぶ）
○飲む、遊ぶ、他愛も無い話をする

お疲れ様です。お忙しいかと思いますが、読んでいただけると幸いです。
今年度から主に【授業力の向上】を目的として、若手で研究チーム「坂小ファイヤー」を発足させ、若手を中心に上のチラシを配りました。月１のペースで集まり、勉強会を開いたり、実践を交流したり、悩みを共有したりしていきます。その都度「ファイヤー通信」を発行してお知らせ・報告していきますので、お時間が合う先生がいらっしゃれば、ぜひ参加していただいて、アドバイスや解決策を一緒に考えていただけると有難く思います。また、上記の３つ目の○にもあるように、先輩方の知識や技を継承すべく、ゲストティーチャーでお呼びしたいとも考えていますので、お声がけさせて頂いた際には、ご一考していただければ、と思います。よろしくお願いします。

新採用の先生に、メンバーが学級開きの様子を見せています



大分大学附属小学校の先生による講義・演習



teamsにて、運動会表現の練習方法を共有

各種大会にも若手が積極的に参加するようになり、その還流報告なども行なっています。

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】大分市立小佐井小学校

若手教職員の指導力向上　U－30 計画

■ Point 1　意図的に時間を設定して集まることで、習慣化されている点。

■ Point 2　負担にならないよう短時間で行い、若手も積極的に参加できる点。

若手教職員研修（U-30）計画　二学期　２０２３．１０．１９　○○

目的：若手の指導力向上や日頃の悩み相談

メンバー：　○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○　＋　希望者

サポーター：○○（研究主任）

場所：４年１組　教室

研修日：　金曜日　１５：４５～　３０分程度

授業観察をしたい方は日時・時間・クラス・教科を決めます

若手の先生方が学びたいことを中心に金曜日の放課後（国語の授業の流し方・所見の書き方等）を中心に研修を行い、負担にならず、短時間で行える内容にします。

月　日(金)	放課後担当者
９月　１日（金）	夏休み研修したことの還元 UD（山口）・プログラミング（○○） 読書感想画の描き方（○○）
９月　８日（金）	ジャコット（○○） 指導案審議（○○）・ ALT 交流（○○）
９月１５日（金）	いじめ防止サミット（○○） 国語（○○）・指導案審議（○○）
９月２２日（金）	４年国語の授業（○○）事前研
９月２９日（金）	２年生見学遠足 ４年国語の授業（○○）事後研
１０月６日（金）	１年生見学遠足 体育発表会準備
１０月１３日（金）	体育発表会準備
１０月２０日（金）	体育発表会準備
１０月２７日（金）	体育発表会準備
１１月３日（金）	休日　文化の日
１１月１０日（金）	指導案の書き方
１１月１７日（金）	指導案の書き方
１１月２４日（金）	４年生見学遠足
１２月　１日（金）	期末整理
１２月８日（金）	期末整理　３年生見学遠足
１２月１５日（金）	期末整理
１２月２２日（金）	終業式

※　U-30　学びたいことがあれば、随時募集中

授業観察

	日時	クラス	教科
○○		色んな方の授業を見に行きます	
○○		６－２（○○）	社会
○○		４－３（○○） ３－２（○○） １－１（○○）	算数
○○		５－１（○○） ○○	総合 外国語
○○		４－１（○○）	国語
○○		４－１（○○）	国語
○○		４－１（○○）	国語
○○		４－１（○○）	国語
○○		５－１（○○）	道徳
○○		４－１（○○）	国語
○○		○○	理科
○○		色んな方の授業を見に行きます	

校内研修の充実がベースになっています。

【校内研修・研究内容および方法】

（1）全体研2回（算数科1回、道徳科1回）
　全体研をしない人は、互見授業

（2）今年度も昨年度に引き続き「こざい3策」
　を基本として、取り組む

（3）研修・研究の時は、研修たてわり班
　（若手教育研修を兼ねる視点）

（4）互見授業（特別支援学級含む）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
研修たてわり班				A		
研修たてわり班				B		
研修たてわり班				C		
研修たてわり班				D		

【小佐井小学校の考える学力とは】
「資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付けていること」とする

各分野の研修の担当が、研修を進めるなどリーダーになってもらい、研修の充実を目指しています。

いじめ対応	生徒指導提要改訂における指導主事招聘	児童理解	学習環境の共有	学力向上プラン作成年2回	算数科こざい3策	巡回相談活用	個別の指導計画	講師招聘
	生活指導・健康安全研修	危機管理・AED		校内研究	全体研年1回・互見授業（6・11月）		特別支援教育	大きな行事の時の児童の様子
				簡易指導案	たてわり班			
	全体研１回	教育課程を参考に日常の生活と結び付ける	生活指導・健康安全研修	校内研究	特別支援教育		体力テスト職員研修	ワクワク事業（１・２年）
	道徳教育研修		道徳教育研修	校内研修	体育・食育研修		体育・食育研修	１校１実践の取組
			人権・同和教育研修	ICT研修・外国語研修	教職員スキルアップ研修・若手教職員研修	食育指導（若手の先生対象）	食育授業（各クラス）	なわとびなどの実技研修
年2～3回の研修（8月・2月）	地域の方を講師によんで研修	人権集会につなげて児童へ還元		ロイロノートの使い方			地域教材研修（旭化成など）	U-30
	人権・同和教育研修			ICT研修・外国語研修			教職員スキルアップ研修・若手教職員研修	明日の授業に生かせる内容
				外国語の授業の仕方				

実践事例の紹介

特別支援教育の充実

【事例】臼杵市立臼杵小学校

通級指導教室の充実

通級による指導を受ける児童の「通常の学級での見取り」の際の連携の工夫

- ■ Point 1　児童を見取る視点がきめ細やかに設定でき、明確な点
- ■ Point 2　定量的な測定ができ、評価が出せる点
- ■ Point 3　根拠となる事実等が記述できるため、事後の話し合いに活用しやすい点

通級指導教室評価シート（通常の学級で）

月　日（　）（　）時間目　教科：
（　）年（　）組　名前（　　）
評価者（　　）

目標	評価項目	評価（正の字）				特記事項	評価	総合
	①							
	②							
	③							
	①							
	②							
	③							
	①							
	②							
	③							

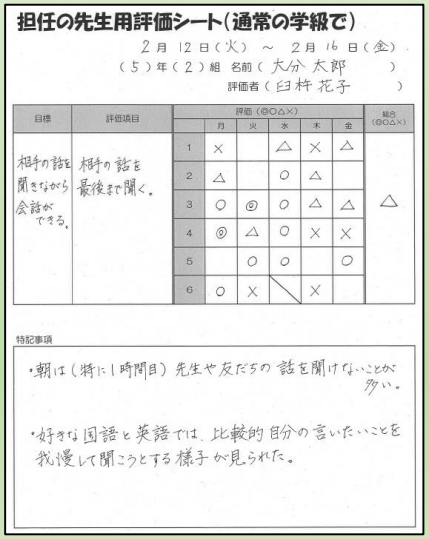
記入例

2月 9日（金）（4）時間目 教科：国語
（5）年（2）組 名前（大分 太郎）
評価者（臼杵 花子）

目標	評価項目	評価（正の字） よくできた	できた	もう少し	できなかった	特記事項	評価	総合
相手の話を聞きながら会話ができる。	①相手の話を最後まで聞く。	正	一			・体の向きをしっかり相手に向けて聞けていた。	◎	○
	②順番（自分のターンの時）に話す。	下	丁			・周りをよく見てちょうど良いタイミングで話せていた。	◎	
	③自分の考えを伝える。		一	下		・あまり伝えられていなかった。 ・独り言のようにつぶやくことが多かった。	△	
相手の気持ちを考えて行動できる。	①ちくちく言葉を言わない。	正					◎	○
	②友だちの発表に反応している。	正	一			・何度もうなずいていた。	◎	
	③テンションを上げすぎない。		一	一	正	・自分の意見が通らなかったことにすねて、その後の活動ができなかった。	×	

評価シートを使用することで、通級による指導を受けた結果、該当児童が通常の学級において、どのような様子で学習しているかを効果的に見取ることができます。

学級担任用評価シート


担任の先生用評価シート（通常の学級で）

2月 12日（火）～ 2月 16日（金）
（5）年（2）組 名前（大分 太郎）
評価者（臼杵 花子）

目標	評価項目	評価（◎○△×） 月	火	水	木	金	総合（◎○△×）
相手の話を聞きながら会話ができる。	相手の話を最後まで聞く。	1 ×		△	×	△	△
		2 △		○	△		
		3 ○	◎	○	△	△	
		4 ◎	△	○	×	×	
		5	○	○		○	
		6 ○	×		×		

特記事項

・朝は（特に1時間目）先生や友だちの話を聞けないことが多い。

・好きな国語と英語では、比較的自分の言いたいことを我慢して聞こうとする様子が見られた。

目標や評価項目を絞っており、毎時間記述する必要がないので、評価者の負担も少ない。

実践事例の紹介

体力向上の推進

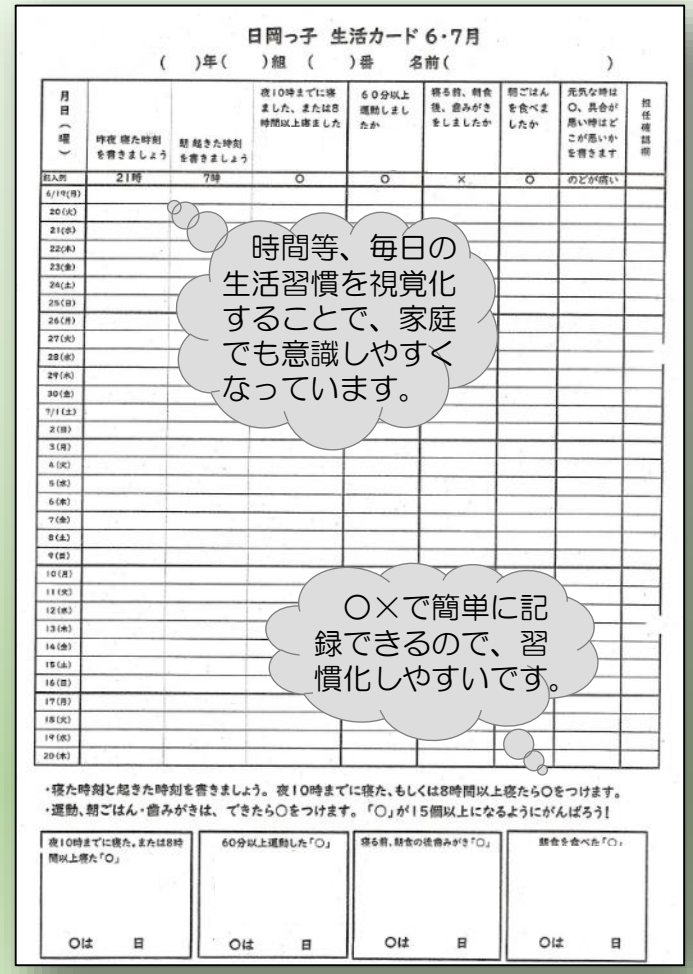
【事例】大分市立日岡小学校

体力向上と心身の健康の保持増進

子どもたちの「体調管理」に向けた取組

■ Point 1　就寝及び起床時間、生活習慣の把握に努め、家庭との協働による子どもの体調管理を行う点

■ Point 2　睡眠時間等の数値化 ⇒ 子どもの実態を基にした指導（呼び掛け）⇒ 欠席児童数の大幅な減少につながっている点



日岡っ子　生活カード 6・7月

（　）年（　）組（　）番　名前（　）

月日（曜）	昨夜 寝た時刻を書きましょう	朝 起きた時刻を書きましょう	夜10時までに寝ました、または8時間以上寝ました	60分以上運動しましたか	寝る前、朝食後、歯みがきをしましたか	朝ごはんを食べましたか	元気な時は○、具合が悪い時はどこが悪いかを書きます	担任確認印
記入例	21時	7時	○	○	×	○	のどが痛い	
6/19(月)								
20(火)								
21(水)								
22(木)								
23(金)								
24(土)								
25(日)								
26(月)								
27(火)								
28(水)								
29(木)								
30(金)								
7/1(土)								
2(日)								
3(月)								
4(火)								
5(水)								
6(木)								
7(金)								
8(土)								
9(日)								
10(月)								
11(火)								
12(水)								
13(木)								
14(金)								
15(土)								
16(日)								
17(月)								
18(火)								
19(水)								
20(木)								

・寝た時刻と起きた時刻を書きましょう。夜10時までに寝た、もしくは8時間以上寝たら○をつけます。
・運動、朝ごはん・歯みがきは、できたら○をつけます。「○」が15個以上になるようにがんばろう！

夜10時までに寝た、または8時間以上寝た「○」	60分以上運動した「○」	寝る前、朝食の後歯みがき「○」	朝食を食べた「○」
○は　日	○は　日	○は　日	○は　日

時間等、毎日の生活習慣を視覚化することで、家庭でも意識しやすくなっています。

○×で簡単に記録できるので、習慣化しやすいです。

「校長室だより」による情報発信

令和5年度　日岡小学校長室だより　　令和　5年6月30日　No.3

日岡っ子

ひ とつながる
お もいやり
か んがえ行動する

大分市立日岡小学校　文責　校長　榊原　賢一

生活カードの記入ありがとうございます

6月19日から始めた生活カードですが、毎日記入し、提出していただきありがとうございます。できるだけ、提出された全校児童全員のカードに目を通すようにしています。時々付箋でメッセージを書いてお知らせすると、翌日にはそのメッセージにこたえてくれる書き方をしてくれたり、生活時間を見直してくれたりして私にとって楽しい時間となっています。そして、毎日書いていただいているデータは、これから少しずつ皆さんにフィードバックしていきたいと考えています。

睡眠時間　6月19日～23日

1週間のデータをお示しします。
8時間以上を目安に睡眠をとるよう子どもたちには呼びかけていますが、左のグラフの通りすべての学年の平均が8時間以上となっています。ご家庭でのご協力に感謝します。
ただ、高学年になると、日付が変わって寝る子どもが散見されます。高学年（117人）では1日平均22人の児童が8時間を満たしていないこともわかりました。（※7時間55分の児童もおり、一概にNGだとは言えませんが）
「睡眠時間の確保」、「質の高い睡眠」、「早寝・早起き・朝ごはん」とキャッチフレーズは様々ですが、意図していることは同じで子どもたちが、活力をもって学校生活を送られることですね。そこを主眼にそれぞれの立場でできることをやっていきましょう。

4月当初、遅刻・欠席が多いと感じて、始めたこの取り組みですが、2週間で変化があったのか気になるところです。そこで養護教諭に生活カードの記入前と後の数値を出してもらいました。

	遅刻1日平均	欠席1日平均
調査前6月16日まで	6人	15.8人
調査後6月29日まで	5.8人	12.2人

わずかですが、遅刻する児童は減りました。また、欠席児童数は大きく減りました。これまで「体調不良」という微妙な欠席理由でお休みしていた児童がいましたが、最近は「発熱」や「腹痛」など内容がはっきりしてきたことが挙げられます。

学校生活がより良くなるといった好循環を生み出しています。